



平成 19 年 10 月 10 日

各 位

会社名 中外鋳業株式会社
代表者名 代表取締役社長 安藤 道明
(コード番号 1491 東証・大証第二部)
問合せ先 IRセンター 桜庭 勲
(TEL. 03-3201-1541)

第 4 次中期経営計画について

第 4 次中期経営計画（平成 20 年度～平成 22 年度）を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 経営方針

(1) 「本業重視の経営」

歴史ある精金事業（リサイクル事業）、国内トップシェアを占める中古機械事業及び不動産事業に経営の重心を置き、収益性を重視した経営を目指します。

(2) 「株主重視の経営」

「常在戦場」の意識を徹底させ会社の活性化を図り、収益力の向上を目指します。現在、株価も低迷しておりますが、本業重視の経営を行ない配当可能利益生み出す収益体質の確立を目指します。

(3) 「将来ビジョン」

将来は、当社の各事業部を分社化するとともに、M & Aにより買収する子会社を含めた全体を束ねるホールディングカンパニー制を目指しております。迅速な意思決定と機動的な業務執行を図り、経営計画の達成を強力に推進いたします。

2. 基本戦略

(1) 第 3 次中期経営計画の総括

第 3 次中期経営計画中の平成 19 年度に投資事業からの撤退を決定いたしました。この投資事業からの撤退に伴い、事業内容が大幅に変わることになったため、新たに、平成 20 年度を初年度とする第 4 次中期経営計画を策定することにいたしました。

(2) 第4次中期経営計画の基本戦略

精金事業

東京工場は溶媒抽出法による金精製回収設備を有し、金地金は月産550kgの生産体制を整えております。

営業拠点は、現在、東京支店、御徒町支店、御徒町南口支店、新宿西口支店、甲府支店、大阪支店、名古屋支店、福岡支店の8店舗体制で、平成19年度中に銀座支店及び都内1店舗を新設、大阪支店は集客力のある地区へ移転いたします。

全国10店舗体制といたします。

さらに、当計画期間中に5店舗の新設を計画しております。

精金事業は、金及びプラチナのリサイクル事業をメインとして事業展開し、売上高及び利益の増大を図ってまいります。

不動産事業

強力な情報収集力と資金力を武器に、不動産の売買、仲介、開発を中心とした堅実でリスクのないビジネスモデルを構築し、資金の回転率を高め、効果的な運用益を確保してまいります。

所有不動産については、今後の不動産市況を見ながら計画を立案してまいります。

機械事業

中古工作機械、鋳金機械等の仕入販売を中心としたビジネスモデルを構築しており、営業人員の増強により更なる売上高及び利益の増大を図ります。

低コストの中古工作機械、鋳金機械等の需要は国内及び海外においてもますます高まっており、顧客ニーズに応えるべく営業展開を図ってまいります。

新品の工作機械等にも取り組み、販路の拡大を図ります。

3. 数値目標

(1) 連結数値目標

最終年度の売上目標は358億円、経常利益率1.3%、ROE3.3%を目指します。

単位：百万円

項目	平成20年度	平成21年度	平成22年度
売上高	30,100	34,000	35,800
経常利益	200	340	470
経常利益率	0.7%	1.0%	1.3%
当期利益	170	310	440
ROE(%)	1.3%	2.4%	3.3%

(2) 事業別売上目標

単位：百万円

項目	平成20年度	平成21年度	増加率	平成22年度	増加率
精金事業	22,900	26,000	13.5%	26,900	3.5%
不動産事業	4,400	4,900	11.4%	5,400	10.2%
機械事業	2,800	3,100	10.7%	3,500	12.9%
計	30,100	34,000	13.0%	35,800	5.3%

(3) 平成 19 年度業績予想との売上高比較

単位：百万円

項目	平成 19 年度予想	平成 20 年度計画	増加額	増加率
精金事業	20,700	22,900	2,200	10.6%
不動産事業	2,100	4,400	2,300	109.5%
機械事業	2,600	2,800	200	7.7%
投資事業	300	-	300	-
計	25,700	30,100	4,400	17.1%

(4) 平成 20 年度の計画達成のための施策は以下のとおりであります。

精金事業は、東京工場で金 550 k g / 月の生産体制を整えており、新たに溶媒抽出法によるプラチナのリサイクル事業に進出し、20 k g / 月の生産体制を目指します。営業拠点としては、平成 19 年度中に、全国に 10 店舗の体制を整え、金及びプラチナの原料を積極的に購入し、売上高及び利益の増大を図ります。

また、平成 20 年度中にさらに 2 ~ 3 店舗の新設を計画し、金及びプラチナのリサイクル事業を積極的に進めてまいります。

不動産事業は、年間 44 億円 ~ 54 億円の売上高を目指します。

所有不動産については、今後の不動産市況を見ながら計画を立案してまいります。

機械事業は、営業人員を大幅に増員することにより売上の増加を目指します。

新製品課を新設し、新品の工作機械等の販売にも力をいれてゆきます。

4. 湯ヶ島鉱床ボーリング計画

(1) 計画の経緯

当社が鉱区を所有している伊豆半島には数多くの金山が分布し、特に中央域には大規模鉱山が密集しており、湯ヶ島鉱山は代表的なもので、昭和 47 年まで稼動しておりました。同鉱山周辺は伊豆地区広域調査に含まれ、石油天然ガス・金属鉱物資源機構が数年にわたり調査を行いました。これと平行して、当社は湯ヶ島 ~ 浄蓮鉱山地区の地質・鉱床露頭調査を実施し、数本のボーリングを計画しました。このボーリングのうち、最も鉱床賦存のポテンシャルの高いものは、坑内開発により鉱床の状況の良くわかっている湯ヶ島鉱床の下部探査を目的としたものであります。

この度、湯ヶ島鉱床の実態把握を目指し、このボーリング計画を実施いたします。

(2) 計画概要

計画名	湯ヶ島鉱床下部ボーリング
掘削深度	800m
申請書提出	平成 19 年 9 月 経済産業省関東経済局資源エネルギー環境部鉱業課 ボーリング申請書提出
期間	平成 20 年 1 月 ~ 5 月
事業予算	45 百万円

なお、上記数値目標は、経済情勢・社会情勢の変化により実際の業績と異なる場合があります。

以 上